Rotary
ロータリーのマジック
2024-25 年度 RI テーマ
国際ロータリー会長
ステファニー A. アーチック

Weekly Bulletin
藤枝南ロータリークラブ　会報

例　会：毎週金曜日
会　場：小杉苑　藤枝市青木 2-35-30
ＴＥＬ：054-641-3321
事務局：藤枝商工会議所内
ＴＥＬ：054-646-3919　ＦＡＸ：054-643-2000
E-mail：jimukyoku@fujieda-south-rotary.jp

2024-25 年度
会長：漆畑雄一郎　副会長：鈴木寿幸　幹事：中山恵喜　副幹事：加藤智之

例　会　第１５６１回　通常例会/小杉苑

ソング：それでこそロータリー、しあわせなら手をたたこう　ソングリーダー：山田幸保君

会 長 挨 拶　　漆畑雄一郎君

昨日 8/8 の 16:43 に宮崎県の日向灘沖でM7.1 の地震がおきました。これにより南海トラフ地震臨時情報が発令され、「巨大地震注意」という情報が発表されました。ここ静岡では 50 年前から東海地震が騒がれ、地殻変動を事前に察知することにより、地震予知しようとする様々な国の施策が行われたことはご存じのことと思います。しかしながら、阪神淡路震災や東日本大震災を経験して、地震を予知することは、現段階においては不可能であることもわかっています。ですから、日頃の備えが何よりも必要になってくることは必須ですので皆様心して備えましょう。

8/7 は立秋でした。この日から、季節の挨拶も暑中見舞いから残暑見舞いに変わります。
暦の上では秋になったわけですが、 まだ毎日暑い日が続いています。お盆明けになれば、秋の気配が少しずつ感じられる事となるでしょう。立秋の七十二候は涼風至（すずかぜいたる）、寒蝉鳴（ひぐらしなく）、蒙霧升降（ふかききりまとう）です。

出 席 報 告　　鈴木健夫君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
40／51　78.43%	43／51　84.31%

（1）欠席者（事前連絡とメークアップをどうぞ）

〇阿井君〇朝比奈君〇伊藤彰君〇稲葉君〇内山君
〇江﨑君〇加藤君〇川口君〇平原君〇増田君
〇村松君

（1）メークアップ者

杉山茂範君（磐田）富澤静雄君（島田）
山田壽久君（島田）

食事準備数	食事提供数	残	累計残
42	42	0	5

パーフェクト例会数：😊😊

欠席連絡は、当日朝10時前までにお願いします

スマイルＢＯＸ　　鈴木健夫君

・誕生日プレゼントありがとうございます。
森下傑君

スマイル累計額　１３０，８９０円

会員卓話

山田壽久君

皆さん、こんにちは。今日は、久しぶりの卓話と言うことで色々と悩みましたが、私の仕事が建設業でありますので、ちょうど8年前に会長を務めさせていただいた時、会長挨拶で田中角栄の言葉を紹介させていただきましたので、思い出しながら彼の日本列島改造論について挨拶させていただきます。

田中角栄が、総理大臣になったのが 52 年前の 1972 年で私が大学を卒業して家業に就いた年でありました。当時は、ものづくりを目指す理系の学生が大変多く、また沢山の企業からの求人が華やかな頃でありました。当時、 田中角栄が日本列島改造論をかかげ、東京一極集中という現在の状況と同じ状況であり、それを解消する為の方法論でありました。彼が総理大臣に就任した、ちょうど 52 年前と言えば、その時代背景は今とは大変異なります。所得倍増計画と高度経済成長により、人口の都市集中と地方の過疎化が一段と進んだ時期でありました。半世紀前に、田中角栄が明治維新から100年余りの間に進行した過密と過疎の格差を是正し、日本列島全域を資源環境豊かで、しかも地域社会の文化を守りつつ、利便性に優れた社会に造り直すための国民に向けた提言でありました。娘の田中真紀子が、昨年、父:角栄の日本列島改造論の復刻版を書き上げました。その本の中から抜粋をさせていただき、半世紀前に現在と同じような状況の中、豊かな日本をつくり上げるためにかかげた改造論をご紹介したいと思います。

ものづくりの業界の人間としての観点から、色んな見方をして参りたいと思います。当時は、新幹線を中心とした高速鉄道や高速道路を地方に行き渡せることで、人口と産業の地方分散を実現し、過疎と過密を同時に解消する事を打ち出しています。そして、もう一つ特質すべきことはインターネット発達の歴史は、本年で約 30 年余になりますが、今から 50 年も前にすでに日本を情報列島にする必要性を説き、現在のインターネット時代を予測し、テレビ電話やコンピューターをボタン一つで操作し、全国への情報格差を無くすことに着目していました。そのための情報のネットワークの整備やシステムの開発、通信コストの合理化なども提言しています。1970 年代に、このような夢を実現する発想をしていたことに、大変驚きます。しかし、翌年の 1973 年には第一次オイルショックがおこり、さらに 1991 年には湾岸戦争やソ連の崩壊など、世界史に残る外交上の地殻変動がおきました。また、日本国内においても 1989 年 12 月 29 日のバブル経済の崩壊により、地価や株価が急落し、日本の政治はその対応に追われました。54 歳で戦後最年少の内閣総理大臣となった角栄は、その時期に都市政策大綱をまとめ、日本列島改造へとつなげています。新しい視野と角度から、日本列島改造の処方箋を書き上げました。政治は、夢を実現できるものと口癖のように言っていた角栄は、自らの夢や希望を語り、その実現のために様々な決断をして参りました。また、民間資本と教育文化医療などの社会資本のバランスある整備にも心を砕いており、様々な財源をもとめ、常に考えを巡らせておりました。37 万平方キロメートルの山がちで、狭隘な国土に 1 億人を超える人口があり、しかも資源に乏しい国、それが日本の実態であります。その国土にあって国民生活の安定と向上のために地域間格差を無くし、国土の均衡ある発展を遂げる、これがまさに日本列島改造論でありました。当時は、公共工事も列島改造論により、様々な工事が計画され、私どもの建設業界にとりましては、以降大変良い状況が続きました。当時は、ほとんど休みも取れない程、忙しい時期を過ごして参りました。今、思い返せば私ども建設業界の働き方も随分変わり、働く時間も制限され、私ども団塊の世代には、とてもついていけない世の中となりました。こうして学校卒業後、半世紀を過ぎ、当時を振り返れば日本の悩みは今の時代と同じだと、つくづく感じております。今後も、おそらく人口の減少による経済の衰退に向けての対策が政治家の大きな課題であると一層感じました。

最後に、角栄の政治家としての言葉をもう一度紹介して終わりにしたいと思います。彼はいつも、政治には勝機をつかむタイミングと言うか、掛け替えの無い一瞬がある。そのチャンスを捕まえなければ駄目だと言っておりました。「世の中は、白と黒ばかりではない。敵と味方ばかりでもない。その間にある中間地帯、グレーゾーンが一番広い、

真理は中間にある。」これが、私も一番大好きな言葉であります。これからもこの言葉を忘れずに、まだもう少し、今の仕事を続けて行ければと思っております。私の仕事と言うテーマとは、少し離れてしまいましたが、田中真紀子の日本列島改造論復刻版を参考に半世紀前の自分を思い出してみました。ありがとうございました。

渡辺哲朗君

建設業の中の設備工事を手がけているが、設備工事の中でも主に給排水衛生設備の工事を施工しており、給排水衛生設備工事は、一般的に「水道工事」といわれている。

藤枝市の水道普及率は約 95%で、ほとんどの人が市の上水道を使っている。しかし瀬戸谷や朝比奈の山間部では、集落ごとに共同水道や井戸で給水が行われている。

藤枝市の上水道の水源は、泉町や青南町の水源地が主体で、大井川の地下水を地下 90mから汲み上げている。泉町・青南町で市の給水量の約 70%、瀬戸川・朝比奈川の地下水で 10%、そして長島ダムから利水している大井川広域水道企業団から 20%を調達している。

藤枝市の水道水は約 80%地下水を利用しているので、水質は良好で冷たくて美味しい。

東京都の水道水に比べて残留塩素は半分程度である。

藤枝市の上水道の水源は、大井川の地下水に 70%、表流水に 20%の合わせて 90%を大井川に依存している。今、リニアの問題で大井川の水が注目を浴びてきたが、大井川とはどういう川なのか、大井川の水はどのように使われているのだろうか。

大井川の総利水量は毎秒 728 ㌧で、その 94%を発電用水が占め、5%が農業用水、水道・工業用水は 1%である。ほとんどが発電用に使われ、大井川は中部電力の川と云われている。

大井川流域は江戸時代から木材の産地として林業が発達し、江戸城や駿府城には大井川の木材が使われた。明治時代になってからは、大倉喜八郎がパルプの生産のため、井川の広大な山林を購入、奥地の木材が切り出され、大井川の本流を流れて島田に運ばれた。島田の町はパルプや製材・木工業が発展し、木都として大いに栄えた。

しかし、大井川は明治時代から電源開発の川としても注目をされ、昭和 11 年に千頭上流に最初の大井川ダムが建設される。第二次世界大戦後は中部電力により大規模な発電所建設が始まり、多くのダムが建設され、木材は大井川を流れることができなくなった。

本流を自然に流れていた大井川の水は、川には流れず、ダムからダムを流れるようになる。

ダムから大井川の水は、山の中のトンネル（導水管）を通して次のダムまで運ばれる。トンネルは直径 5.8m あり、大型ダンプが通れるほどだ。大井川の長さは約 160km だが、この導水管は約 80km あり、半分を占める。大井川の上中流部は、ダム湖には水が満々と湛えられているが、平時は本流には僅かな水しか流れておらず、この導水管が大井川の本流といっていいだろう。

この導水管の水は、下流の島田の川口や赤松で本流に放流され、一部は飲料水として大井川広域水道企業団の浄水場へ、一部は農業用水として志太平野や牧之原・掛川・菊川などの東遠地域に利用され、残りは本流を流れて駿河湾に注ぐ。

昭和 36 年(1961)に完成した中川根の塩郷ダムから下流 20Km は、全く流水が途絶え、河原砂漠になり果てた。その後塩郷ダムから時々放流がされてはいたが、河原砂漠は解消されなかった。アユや魚類が激減して川の生態系が崩れ、川霧がなくなり茶の品質が低下し、人々の生活や風景に潤いが失われた。また下流では地下水の低下で井戸涸れや水涸れが起きた。またダムの上流では河床の上昇で浸水被害が増えるようになった。水利権をもつ電力会社に対する不満が表面化して、住民による「水返せ運動」が起こった。

昭和 63 年(1988)の中部電力の水利権更新時期にあたり、前年に川根三町は、斉藤知事に「大井川を昔の姿に取り戻してほしい」と陳情した。紆余曲折を経て最終的には、塩郷ダムは

通年毎秒３トン、農繁期毎秒５トン（４月～11 月）が放流されることになった。

流水は復活したが、河原砂漠が完全に解消されたわけではなく、まだ道半ばである。

塩郷ダムの水利権返還以後、全国的に「河川環境

の維持」の考え方が重要視され、河川法が改正され、全国の電力会社のダムに対して河川維持放流が義務化された。その結果、サケが戻りだした河川の例も報告されている。

我々の志太平野は大井川の豊富な地下水に恵まれ、その恩恵を受けてきた。焼津、藤枝、島田の三市の上水道は、大半を大井川の地下水に依存している。また高度成長時代に志太平野に進出した製薬工場や様々な製造工場は、大量の地下水を使用している。

このように大井川の水は下流域の我々に多くの恵みを与えている。この水をつくっているのは森林だ。森林は緑のダムといわれ、材木を生み出すだけでなく、水をつくり（水源涵養）、川を治め（土砂の崩壊・流失防止）、酸素供給、大気浄化、生態系保全など多様な効用を持つ。山や森が安定していれば、川も安定する。

大井川はダムで寸断されて、残念ながら本来の川の姿には程遠いが、これからも大井川流域の自然環境や水環境に注視していきたい。

例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
8/23(金) 第 1562 回	納涼夜間例会	ﾎﾃﾙｱｿｼｱ静岡
8/30(金) 第 1563 回	会員卓話	小杉苑
9/6(金) 第 1564 回	会員卓話	理事会
9/13(金) 第 1565 回	外部卓話	小杉苑

今週の一言　山田幸保君

今年度の今週のひと言のお題は「行ったところ、行きたいところ」ということで、私の「行ったところ、行きたいところ」は「フランス」です。

今から 30 年前、私にとって初めての海外旅行先は「フランス」でした。手書きの卒業論文を提出した翌日、語学留学でフランスのニースにいた同級生を頼って、何の下調べもせずに二週間のフランス旅行へと出発しました。

見るもの全てが新鮮でしたが、中でも衝撃的だったのは教会でした。巨大で荘厳な教会が各地にあり、それらを創り出した“人の力”に驚かされました。

フランスで教会、言い換えれば宗教建築物に感銘を受けたお陰で、それまでは「薄暗くて埃っぽいだけだ」と敬遠していた日本の神社仏閣の素晴らしさに気付くことも出来ましたし、学生さんから「就職までに何をしておいたらいいですか？」と尋ねられた時には「とにかく色んな場所へ足を運び、画面越しではなく直接色んな物をみるといいよ」とアドバイスをしています。

夢は「妻と一緒にフランスの西海岸に浮かぶ『モンサンミッシェル修道院』へ行くこと」です。

（担当/鈴木照君）